

第5学年 国語科学習指導案

1 単元名 学習した「読み方」を生かして 「大造じいさんとガン」

2 本単元の目標

- 頭領として威厳のある態度を感じさせる残雪に感動し、人間と鳥という立場の違いをこえて正々堂々戦おうとする大造じいさんの残雪に対する気持ちの変化や見方を読み取ることができる。
- 大造じいさんの気持ちの変化や見方をとらえるために、「情景を読む」読み方を身に付けたり、「文末を読む」「呼称の変化を読む」読み方を使ったりすることができる。
- 本教材で学習した読み方を使って、命を助けてもらった狩人たちが片耳の大シカのすばらしさに心を打たれ銃をおろした姿に作者が感動したことを読み取ることができる。

3 学習指導の考え方

- 本学年の子どもたちは、5年生になって初めての物語文「新しい友達」で、時間とともに変化する同世代の登場人物の気持ちや場面をつないでとらえ、その変化のわけを読み取ってきた。また、説明文「千年の釘にいどむ」では、かじ職人の釘作りにいどむ姿を読み取り、他の世界で挑戦する人々についての本を読み、意見を交流することにより、「いどむ」ということについての見方を広げてきた。さらに前単元「わらぐつの中の神様」では、その学習で中心となる文を読んだり、文末を読んだりすることで、登場人物の気持ちを読み取ってきた。また、祖父母の生き方に感動して変容するマサエの言動や祖父に対する気持ちの変化も読み取ってきた。その後、現在一過去一現在の構成の中で、登場人物の気持ちや変容する同じような作品「春先のひょう」を読み重ねて、「もののほんとうの価値」について読み深めてきている。
- 本単元では、学習した読み方を使って、文章の内容や要旨をとらえ、同じ作者の作品を読むことにより、さらにその読み方を身に付けさせることをねらいとしている。本教材は、狩人である大造じいさんが残雪との戦いの中で、大造じいさんの残雪に対する見方や気持ちの変化を描いた物語である。大造じいさんは、残雪をいまいまましく思っており、狩りの獲物として見ていたところから始まっていく。しかし、残雪の知恵や頭領らしい態度を知ることによりライバルとして認め、ガンの英雄としてたたえていく。そういった残雪に対する気持ちの変化や見方が、大造じいさんの言動に関する表現や情景描写の工夫から読み取ることができる教材である。文章構成の特徴として、前書きと4つの場面から構成されている。前書きには、作者が「書き手」として登場し、読者を物語の世界へ引き込む役割をしている。4つの場面では、一年ごとに場面が区切られ、大造じいさんが残雪と毎年、知恵を絞りながら戦っており、その戦いの度に残雪への気持ちや見方が変化していることを読み取ることができる。文章表現上の特徴として、呼称の変化や文末表現、情景描写から大造じいさんの残雪に対する気持ちの変化や見方が表現されているので、それぞれの読み方を身に付けたり使ったりすることに適した教材であると考えられる。
- 指導にあたっては、まず題名と冒頭から読み通しの目をつくる。題名の「大造じいさんとガン」の助詞の「と」から二つの関係について問題意識をもたせる。そして、大造じいさんがたくさんのお話をしてくれた中で、なぜガンがりの話を物語にしたのかを考えさせて、「大造じいさんとガン」の物語から書き手は何に心をうごかされたのかという読み通しの目を生み出す。

予見の段階では、場面ごとに大造じいさんの残雪に対する気持ちや見方を見つけさせて、大造じいさんの気持ちの変化に着目させ、クラスの予見を方向付ける。話し合いの中で出た予見の違いや曖昧さ、解決できない疑問は残し、学習計画へとつなぐ。学習計画を立てるために、予見の曖昧な所を確かめ、各場面の中心文を選ぶ。中心文を選ぶ際には、大造じいさんの残雪に対して気持ちが強く表れている叙述を見つけさせる。

読み確かめの段階では、文末や呼称の変化、情景描写を手がかりにして、大造じいさんの残雪に対する気持ちの変化や見方を読み取るために、大造じいさんの残雪への気持ちを読み確かめていく。読みのまとめの段階では、予見を振り返り、読み確かめてきたことや題名が残雪ではなくガンとついていることから書き手の伝えたいことを考え、書きまとめる。

最後に、発展として、本教材で学習した読み方を使って、同じ作者の作品を読み、考えを交流しあうことで、作者が伝えたいことに対する自分の考えを深めさせる。

4 学習指導計画（全17時間）

次時	主な学習活動	指導上の留意点	学習する読み方
一 読み通しの目	1 題名と冒頭の読みをつないで、読み通しの目を生み出すことを確認する。 2 題名について話し合う。 3 冒頭（前書き）について話し合う。 4 書き手の思いを想像し、題名と冒頭をつないで、読み通しの目を生み出す。 読み通しの目 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">書き手は、誰のどのような姿に心を動かされたのだろう。</div>	○ 「と」という言葉に着目させることで、大造じいさんとガンにどんな関係があるのかという課題意識をもたせる。 ○ 大造じいさんの職業や年齢を確認することで、物語の成立の背景を考えさせる。 ○ たくさんの中から、ガンがりの話を選んでいけるわけを考えさせることで、読み通しの目を生み出させる。 ○ 「お読みください」という言葉に着目させることで、読ませたいという書き手の意図を考えさせる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; writing-mode: vertical-rl;">題名を読む</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; writing-mode: vertical-rl; margin-top: 5px;">冒頭を読む</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; writing-mode: vertical-rl; margin-top: 5px;">人物・時・場所を読む</div>
二 予見	1 読み通しの目をもとに全文を読み直し、予見をまとめることを確認する。 2 音読の練習をする。 3 文章構成をとらえる 4 自分の予見をまとめる。 5 互いの予見を交流し、クラスの予見を方向付ける。 予見 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">相手のよさを認め、堂々と戦おうする大造じいさんの姿。</div>	○ 時を表す言葉に着目させることで、4つの場面の文章構成をとらえさせる。 ○ 「大造じいさんとガン」の関係を読めばわかることを確認し、予見をまとめさせる。 ○ 大造じいさんの作戦と準備、残雪がしたことを場面ごとにおさえることで、一年ごとの戦いをきちんととらえさせる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; writing-mode: vertical-rl; text-align: center;">文章構成を読む</div>
三 学習計画	1 予見をもとに、学習計画を立てることを確認する。 2 書き手が伝えたいことについて確かめるための中心文を選び、学習計画を立てる。	○ 大造じいさんの残雪に対する気持ちが強く表れている叙述を、それぞれの場面から見つけさせることで、読み確かめるための中心文を選ばせ、学習計画を立てさせる。	
四 読み確かめ	1 大造じいさんが思わず感嘆の声を出してしまったときの残雪に対する気持ちを読んでいくことを確認する。 2 大造じいさんの残雪に対する気持ちのわかるところを中心に書き込みをする。 ----- 3 書き込みをもとに話し合う。 4 本時のまとめをする。	○ 「感嘆」という言葉の意味を確認することで、大造じいさんの残雪に対する気持ちを考えさせる。 ○ 「秋の日が、美しくかがやいていました。」という情景から、特別な方法がうまくいきそうなことをとらえさせ、大造じいさんの残雪に対する気持ちを考えさせる。 ○ 「もらしてしまいました」と「もらしました」という言葉を比べて考えさせることで、大造じいさんの残雪に対する気持ちを考えさせる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; writing-mode: vertical-rl;">情景を読む</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; writing-mode: vertical-rl; margin-top: 5px;">言葉を比べて読む</div>

大造じいさんは、次の日も特別な方法が成功すると考えていたが失敗したので、たいしたちえをもっているものだと残雪に対し心から感心したことをつい口に出してしまった。

- 2 1 大造じいさんが「ううん。」と、うなってしまったときの残雪に対する気持ちを読んでいくことを確認する。
- 2 大造じいさんの残雪に対する気持ちがわかるところを中心に書き込みをする。
- 3 書き込みをもとに話し合う。
- 4 本時のまとめをする。

- 「あかつきの光が、小屋の中にすがすがしく流れ込んできました。」という情景や会話の文末から、大造じいさんの作戦に対する自信を読み取らせ、大造じいさんの残雪に対する気持ちを考えさせる。
- 「見つめたまま」という言葉に着目させることで、「ううん。」と、うなってしまったときの残雪に対する気持ちを考えさせる。

情景を読む
文末を読む

大造じいさんは、夏のうちから準備をしてガンがりにいどみ、今年こそは成功するぞと自信をもっていたが、残雪のためにまたしても失敗して、どうしていいかわからなくなった。

- 2 1 大造じいさんが強く心を打たれてただの鳥に対してしているような気がしなかったときの残雪への気持ちを読んでいくことを確認する。
- 2 大造じいさんの残雪に対する気持ちがわかるところを中心に書き込みをする。
- 3 書き込みをもとに話し合う。
- 4 本時のまとめをする。

- 「羽が白い花卉のようにすんだ空に飛び散りました。」という情景から仲間のために傷ついても戦う残雪の姿を読み取らせ、大造じいさんの残雪に対する気持ちを考えさせる。
- 「たかが鳥」や「あの残雪め」から「いかにも頭領らしい」と今までの場面と呼称が変化していることから、大造じいさんの残雪に対する見方を考えさせる。

情景を読む
呼称の変化を読む

大造じいさんは、仲間を救おうとハヤブサにぶつかっていく残雪の姿や傷つき最期の時を感じても威厳をもった残雪の堂々たる態度にとっても感動した。

- 2 1 大造じいさんがいつまでもいつまでも見守っているときの残雪に対する気持ちを読んでいくことを確認する。
- 2 大造じいさんの残雪に対する気持ちのわかるところを中心に書き込みをする。
- 3 書き込みをもとに話し合う。
- 4 本時のまとめをする。

- 「たかが鳥」から「ガン英雄」「えらぶつ」と呼称が変化していることから、気持ちの変化を読み取らせ、大造じいさんの残雪に対する気持ちを考えさせる。
- 「いまいましく」「心を打たれて」「晴れ晴れとした顔つき」など気持ちがわかる叙述と「雪のように清らかなにはらはらと散りました。」という情景から、見守っているときの気持ちを読み取らせ、大造じいさんの残雪に対する気持ちを考えさせる。
- 大造じいさんの会話文の文末から、見守っているときの気持ちを読み取らせ、大造じいさんの残雪に対する気持ちを考

情景を読む
呼称の変化を読む
繰り返しを読む
文末を読む

（
組
本
時
2
/
2
）

		えさせる。	
		大造じいさんは、残雪の行動に感動し、残雪をだたの鳥としてではなくガンの英雄と認め、正々堂々と戦おうという気持ちになった。	
五 読 み の ま と め	1	<p>1 予見を振り返り、読み確かめたことをまとめるとともに、書き手の伝えたいことを話し合うことを確認する。</p> <p>2 読み確かめたことをまとめ、書き手の伝えたいことについて話し合う。</p> <p>3 書き手の伝えたいことに対する自分の考えを書く。</p> <p>4 学んだ読み方についてまとめる。</p>	<p>○ 書き手の伝えたいことを考えさせるために、どうして大造じいさんの残雪に対する気持ちが変わっていったのか考えさせる。</p> <p>○ 書き手の伝えたいことを考えさせるために、題名が「残雪」ではなく、「ガン」となっている理由に着目させる。</p>
		頭領として威厳のある態度を感じさせる残雪の姿に感動し、残雪をガンの英雄と認め、人間と鳥という立場をこえて正々堂々と戦おうとする大造じいさんの姿に心を動かされた。	
六 （ ○ 組 本 時 4 / 4 ） 発 展	4	<p>1 「大造じいさんとガン」で学習した読み方を生かして椋鳩十の他の作品「片耳の大シカ」を読み、作者が伝えなかったことについて話し合っていくことを確認する。</p> <p>(1) 「大造じいさんとガン」の読み通しの目を生かし、自分の力で読んでいくことを確認する。</p> <p>(2) 作品を読んで自分の考えを書く。</p> <p>(3) 友達の考えを知り、質問や意見を書く。</p> <p>(4) 作者が伝えたいことについて話し合う。</p> <p>① 代表児の考えを出す。</p> <p>② 質問や付け足しをする。</p> <p>③ 全体で交流し合う。</p> <p>④ 自分の考えを見直し、考えが深まったことを書く。</p> <p>⑤ 本時学習のまとめをする。</p>	<p>○ 「大造じいさんとガン」で学習した「読み通しの目」を生かして、自分の力で読んでいくことを確認する。</p> <p>○ どんな「読み方」を使って読んでいけばよいか振り返らせる。</p> <p>○ 学習した「読み方」を使って最後まで自分で読み、作者が一番伝えたいことについて考えをまとめさせる。</p> <p>○ 自分の考えの根拠となる叙述に付箋を貼り、どのような「読み方」を使って読んだのか分かるようにまとめさせる。</p> <p>○ 友達の考えに対して質問や意見が言えるよう、事前に一覧表を配布しておく。</p> <p>○ みんなから出されると考えられるものを代表児童に提案させる。</p> <p>○ 根拠となる叙述や「読み方」を交流し、自分の考えを振り返らせる。</p> <p>○ 作者が伝えなかったことについて自分の考えを深めさせる。</p>
			<p>題名を読む</p> <p>情景を読む</p> <p>冒頭を読む</p> <p>呼称の変化を読む</p>

第5学年〇組

5 本時 (12/17)

6 本時の目標

- 仲間のために命をかけて戦った残雪のことをガンの英雄として認めるようになり、正々堂々と戦おうという大造じいさんの気持ちの変化を読み確かめることができる。
- 大造じいさんの気持ちの変化を読むために、「呼称の変化を読む」「文末を読む」「情景を読む」読み方を使うことができる。

7 本時指導の考え方

子どもたちは、前時までに、各場面ごとに大造じいさんの残雪に対する気持ちを読み取り、大造じいさんの残雪に対する気持ちの変化していることを読み確かめてきている。その中で、呼称の変化や情景、文末を読む読み方を経験している。

本時は、前時での書き込みをもとにして、飛び去っていく残雪をいつまでもいつまでも見守っている大造じいさんの残雪に対する気持ちを読み取り、大造じいさんの気持ちの変化をさらに読み確かめる学習である。そのために、まず、3の場面までを通して大造じいさんの残雪に対する気持ちをどう読み確かめてきたかを振り返り、本時学習の見通しをもつことができるようにする。次に、4の場面までを通して大造じいさんの気持ちがどう変わってきたか、代表児の考えを聞く。その際、代表児の発表をもとに自分との共通点や相違点を考えながら、話し合いを進めることを確認する。そして、大造じいさんの残雪に対する気持ちの変化を話し合う。それぞれの考えを付け加えていく中で、大造じいさんの気持ちがわかる叙述や情景とつなげてとらえさせる。また、会話文中「ガンの英雄」や「えらぶつ」「おれたち」という言葉に着目させ、1～3場面までの呼称と比べることで、次第に対等な立場になってきていることをとらえさせる。また、大造じいさんがガンに呼びかけている会話文を中心にして、文末に着目させ、残雪に対して人に呼びかけるような言い方になっていることをとらえさせる。さらに、これまでの話し合いをもとにしながら、いつまでもいつまでも残雪を見守っているときの大造じいさんの気持ちを話し合う。最後に、いつまでもいつまでも見守っているときの残雪に対する大造じいさんの気持ちについて読み確かめたことを確認する。その際に、代表児に黒板を使って本時学習で学んだことを説明させる。また、本時で学習した読み方もおさえ、今後の学習でも活用できるようにする。

8 板書例

学習した「読み方」を生かして
大造じいさんとガン
椋鳩十

1 「うむ。」
大造じいさんは思わず感たんの声をもらしてしまいました。
「うん。」
どうなつてしまいました。

2 大造じいさんは、広いぬま地の向こうをじっと見つめたまま、
「うん。」
どうなつてしまいました。

3 強く心を打たれて、
ただの鳥に対してはよきな気がしませんでした。
仲間のために命をかける姿 感動

4 らんまんときいたスモモの花が、その羽にふれて、
雪のように清らかに はらはらと散りました。
すがすがしい

「おうい、ガンの英雄よ」
認めている
「おまえみたいなえらぶつを、
おれはひきようなやり方でやつけたかあないぞ」
なあ、おい。今年の冬も、仲間を連れてぬま地へやって来いよ」
「おれたちは、また堂々と戦おうじゃないか」
対等な立場として

大造じいさんは、大きな声でガンによびかけました。そうして、
晴れ晴れとした顔つきで見守っていました。
残雪が見えなくなるまで 長い時間
いつまでも、いつまでも見守っていました

大造じいさんは残雪を認め
た
正々堂々と戦おうという
気持ち

まとめ 大造じいさんは、残雪の行動に感動し、残雪をただの鳥としてではなくガンの英雄と認め、正々堂々と戦おうという気持ちになった。

呼称の変化
文末
情景

9 本時の展開

配時	学習活動と内容	指導上の留意点
3	<p>1 前時までの学習を振り返り、本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>大造じいさんが、いつまでもいつまでも見守っているときの残雪に対する気持ちを読み確かめよう。</p> </div>	<p>○ 前時までの 物を用いてこれまでの学習を振り返ることで、本時学習の見通しをもたせる。</p>
2	<p>2 本時場面を音読する。</p>	
2 5	<p>3 大造じいさんの残雪に対する気持ちを話し合う。</p> <p>(1) 代表児の発表を聞く。</p> <p>○ 大造じいさんは、残雪を認め、正々堂々と戦おうという気持ち</p> <p>(2) 呼称の変化や文末、情景から大造じいさんの残雪に対する気持ちの変化について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 残雪の行動に感動し、いまいましさから晴れ晴れとした気持ちになっている。 ・ 「ただの鳥」に対する呼び方ではなく、対等な立場になっている。 ・ 「堂々とたたかおうじ ないか」と残雪に呼びかけている。 <p>(3) 残雪を見守っているときの大造じいさんの気持ちを話し合う。</p>	<p>○ カル をもとに、代表児を選んでおく。</p> <p>○ 代表児に前時までの 物や板書を用いて発表させることで、代表児の読みと自分の読みの共通点や相違点を考えさせる。</p> <p>○ 「たかが鳥」から「ガンの英雄」「えらぶつ」に呼称の変化に着目させることで、大造じいさんが残雪を認め、対等な立場と思っていることをとらえさせる。</p> <p>○ 「いまいまして」「心を打たれて」「晴れ晴れとした顔つき」など気持ちがわかる叙述と「雪のように清らかにはらはらと散りました。」という情景から、大造じいさんが残雪を認めていることをとらえさせる。</p> <p>○ 「たかが鳥」から「ガンの英雄」「えらぶつ」と呼称が変化していることから、大造じいさんの残雪へ気持ちの変化を読み取らせ、大造じいさんの残雪に対する気持ちを考えさせる。</p> <p>○ 大造じいさんの会話文の文末から、見守っているときの気持ちを読み取らせ、大造じいさんの残雪に対する気持ちを考えさせる。</p> <p>○ 「いつまでも、いつまでも」という り返しから時間の長さを考えさせ、「見る」と「見守る」という言葉を比べることにより、残雪を見守っているときの大造じいさんの気持ちを考えさせる。</p>
1 5	<p>4 本時学習を振り返り、「今日の学習で」を書き、本時学習をまとめる。</p> <p>(1) 話し合いを振り返り、「今日の学習で」を書き、発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>大造じいさんは、残雪の行動に感動し、残雪をただの鳥としてではなくガンの英雄と認め、正々堂々と戦おうという気持ちになった。</p> </div> <p>(2) 本時で学んだ読み方をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文末を読む ・ 呼称の変化を読む ・ 情景描写を読む 	<p>○ 代表児に黒板を使って本時学習を振り返らせる。</p> <p>○ 「今日の学習で」には、はじめの自分の考えが話し合うことでどのように深まったり、変わったのか書かせる。</p> <p>○ 今後の学習で読み方を活用できるように、本時で使った読み方を確かめる。</p>

第5学年〇組

5 本時 (17 / 17)

6 本時の目標

- シカの大将としてどんな時も堂々と威厳をもった態度の片耳の大シカの姿に、作者が感動したことを読み取ることができる。
- 「片耳の大シカ」で、作者が「だれのどんな姿に感動したのか」を読むために、「大造じいさんとガン」で学習してきた「題名を読む」「呼称の変化を読む」「情景を読む」読み方を使うことができる。

7 本時指導の考え方

本時は、同じ作者の「片耳の大シカ」を「大造じいさんとガン」で学習してきた「読み方」を使って、「作者は、だれのどんな姿に感動したのだろう。」という読み通しの目によって自分の力で読み取り、互いの考えをクラス全体で話し合う学習である。

「片耳の大シカ」は、「大造じいさんとガン」と同じ椋鳩十の物語で、い片耳の大シカと狩の名人という登場人物や人間が動物のすばらしさに心打たれて変わっていくという物語の構成がており、発展として子どもたちが読んでいくのに適した題材であると考える。

子どもたちは、前時までに、「題名を読む」読み方を使って「片耳の大シカ」がこの物語の中心であることに気付き、「作者は、だれのどんな姿に感動したのだろう。」という読み通しの目の「だれの」は、「片耳の大シカ」のことだと読み取っている。そこで、「作者は片耳の大シカのどんな姿に感動したのだろう。」にしり、一人一人がこれまでに学習した「読み方」を使いながら、自分の考えをまとめてきている。前時では、友達のことを一覽表で知り、自分の考えとの相違点に目を付け、質問や意見を出したい所に付けている。

本時では、まず、一覽表の中で重なりのかかった考えの中から分かりやすく表現されている児童を代表児童として選び、提案させる。その際に、なぜそう思ったのか根拠となる叙述や「読み方」を明確にし、板書に付けることで考えを分かりやすくさせたい。

次に、提案に対する質問や意見を出させる。その際、話し合いがしやすいように前時に準備した一覽表を使うように声かけする。さらに、出された考えの関連について話し合いを深め、「題名」「呼称の変化」「情景」などのはたらきについて考えさせることで、「作者は、片耳の大シカのどんな姿に感動したのか」を明確にし、それぞれの考えの理を行うことができるようにする。

最後に、もう一度「読み通しの目」にり、初めの考えと学習した後の自分の考えを書きまとめることで、本時の話し合いの中での考えの広がりや深まりを感できるようにする。

8 板書例

<p>「まとめ」</p> <p>私ははじめ、「呼称の変化」から、作者は片耳の大シカの大將としての堂々とした姿に感動したと思っていたが、友だちの考えを聞いて「呼称の変化」だけでなく、「情景」から、どんな時にも変わらない片耳の大シカの威厳のある大將としての姿に感動したことも分かり、考えが深まった。</p>	<p>根拠となる叙述 「呼称の変化」</p> <p>うまくあげてしまおう やつ 何とかして あいつ</p> <p>片耳じやねえかよう</p> <p>片耳の やろう たかがシカ バカにしている</p> <p>かれら すばらしい きちんと呼んでいる</p> <p>あ片耳の大シカ 「題名」</p> <p>片耳の大シカは群れを率いて</p> <p>片耳の大シカの大將としての堂々とした姿</p> <p>「情景」</p> <p>いつの間にか太陽が輝いていました。感動</p> <p>その新しい光を背中いっぱいにあびて 威厳ある姿</p> <p>めあて「片耳の大シカ」を読んで、作者は片耳の大シカのどんな姿に感動したのかについて話し合おう。</p>	<p>「片耳の大シカ」</p> <p>椋鳩十</p>	<p>学習した「読み方」を生かして</p> <p>「大造じいさんとガン」</p> <p>椋鳩十</p> <p>「読み方」</p> <p>呼称の変化</p> <p>文末</p> <p>情景</p> <p>題名</p> <p>大造じいさんは、残雪の行動に感動し、残雪をただの鳥としてではなくガンの英雄と認め、正々堂々と戦おうという気持ちになった。</p>
--	--	----------------------------	--

9 本時の展開

配時	学習活動と内容	指導上の留意点
2	<p>1 本時学習のめあてを確かめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「片耳の大シカ」を読んで、作者は片耳の大シカのどんな姿に感動したのかについて話し合おう。</p> </div> <p>2 代表児童が自分の考えを提案する。 予想される考え 提案 片耳の大シカの大将としての堂々とした姿</p>	<p>○ 本時学習の見通しをもたせるために、前時までの物を用いてこれまでの学習を振り返らせる。</p> <p>○ 提案児童には、その根拠となる叙述や使った「読み方」を分かりやすく伝えるよう助言する。</p> <p>○ 友達の発表を聞く時、一覧表で確認した後、自分の考えとの相違点を明らかにしながらさせる。</p> <p>○ 話し合いの点化のため、事前に子どもたちの考えを一覧表にして配布し、友達の考えに対する質問や意見を準備させておく。</p>
2 5	<p>3 作者は片耳の大シカのどんな姿に感動したのかについて、全体で話し合う。</p> <p>(1) 提案について質問する。</p> <p>(2) 付け加えをする。</p> <p>(3) 意見を交流し合い、それぞれの関係について話し合う。</p>	<p>○ 呼び方が「やつ」「あいつ」「片耳」「やろう」から「かれら」「あの片耳の大シカ」「片耳の大シカ」と変わっていくことから作者の片耳の大シカに対する気持ちの変化を考えさせる。</p> <p>○ 「いつの間にか太陽がかがやいていました。」「その新しい光を背中いっぱいにあびて」の「情景」から片耳の大シカに対する作者の感動を考えさせる。</p> <p>○ 「大造じいさんとガン」で学んだ「題名、呼称の変化、情景」などの読み方を使って読むと片耳の大シカに対する作者の感動が読み取れることをおさえる。</p>
7	<p>4 自分の考えを見直して、「まとめ」を書く。</p>	<p>○ 自分の考えの広がったところや深まったことを感できるように初めの考え、使った読み方、変わった考えの3点に点を絞り、まとめるようにする。</p>
5	<p>5 本時学習のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>私ははじめ、「呼称の変化」から、作者は片耳の大シカの大将としての堂々とした姿に感動していたが、友だちの考えを聞いて「呼称の変化」だけでなく「情景」から、どんな時にも変わらない片耳の大シカの威厳のある大将としての姿に感動したことも分かり、考えが深まった。</p> </div>	